

# 肉用牛経営支援緊急対策と和牛繁殖雌牛増頭対策について

岡山県農林水産部畜産課

## 肉用牛経営支援緊急対策

一昨年来の配合飼料価格等の高騰により、生産コストが上昇しているものの、これが畜産物価格に適切に転嫁されていない現状において、畜産経営はかつてない危機的状況にあります。このため、国は、今年2月の食料・農業・農村政策審議会を経て、畜産・酪農緊急対策を創設しました。さらに、配合飼料価格安定制度の安定運用を図るため、4%追加補てんを停止することにかんがみ、6月に追加緊急対策が発表されました。このうち、主に肉用牛経営支援のための対策については、以下のとおりです。

### (1) 肉用子牛の生産者関連対策

①肉用子牛保証基準価格等への生産コストの適正な反映（補償基準価格の改正）

#### 肉用子牛の保証基準価格（単位：円/頭）

品 種	19年度	20年度
黒毛和種	304,000	310,000
その他肉専	200,000	204,000
乳用種	110,000	116,000
交雑種	175,000	181,000

②肉用子牛資質向上緊急支援事業（新規）

家畜市場における取引価格が交付対象基準価格を下回った黒毛和種肉用子牛を生産した黒毛和種繁殖雌牛を対象に、県肉用子牛資質向上促進計画に即して、優良種雄牛精液による人工授精または優良な繁殖牛への更新により肉用子牛の資質向上を図る子牛生産者に対して支援交付金を交付する。（期間：H20年度）

### (2) 肥育牛生産者関連対策

①牛肉の安定価格への生産コストの適正な反映（安定価格の改正）

#### 牛肉の安定価格（単位：円/kg）

区 分	19年度	20年度
安定上位価格	1,010	1,060
安定基準価格	780	815

②肥育牛生産者収益性低下緊急対策事業（新規）（マルキン事業補完対策）

マルキン事業の契約生産者であって、生産性の向上に向けて計画的に取り組む経営に対し、全国平均で肥育牛1頭当たりの四半期推定所得が物財費割れとなった場合、その6割について補てんする。

（期間：H20～21年度）

③肥育牛経営等緊急支援特別対策事業（新規）

肥育牛の出荷日齢の早期化に取り組むとともに、配合飼料使用量の低減のための肥育方法等に平成20年度に取り組む肉用牛肥育経営体に対して、肥育牛の出荷頭数に応じた経営支援奨励金（5千円/頭）を交付する。（期間：H20年度）

### (3) 肉用牛生産者の生産基盤の強化

①肉用牛生産性向上緊急対策事業（新規）

地域における肉用牛生産性向上目標の達成に必要な器具機材の整備等を支援する。（期間：H20～21年度）

#### ア. 雌牛繁殖性向上対策

分娩間隔短縮や受胎率向上等繁殖性の向上を図るため、種付け及び分娩の繁殖情報等の収集分析、発情発見器や発情同期材等の導入

#### イ. 肉用牛事故率低下対策

肉用牛の事故率低下による生産性の向上を図るため、分娩監視装置、冷却用細霧装置、集団哺育用パイプハウス牛舎、衛生資材等の導入

②肉用牛繁殖基盤強化総合対策事業（継続）

繁殖経営への新規参入の促進、繁殖雌牛導入推進、酪農経営を活用した肉用牛増頭等、肉用繁殖雌牛の増頭に資する。

（期間：H19～21年度）

なお、各対策の詳細については、県畜産課、県民局・支局畜産班、または（社）岡山県畜産協会にお問い合わせください。

## 和牛繁殖雌牛の増頭対策

世界的な穀物需給のアンバランスが生じている中で、我が国の国外依存型の食料事情について、将来における食料安全保障を懸念する声が次第に大きくなっています。

我が国の食料自給率の向上を促進し、食料生産基盤となる中山間地域の活性化を図るうえで、地域の草資源を活用できる「和牛」が最もふさわしい作目として挙げられることから、繁殖和牛の増頭による生産基盤の拡大について、国をあげて取り組んでいるところです。

県では、和牛の安定的な生産基盤を確保するため、平成16年度に県肉用牛振興戦略を策定し、各年度毎に目標頭数（表1）を設定して、これに向けて増頭に取り組んできています。この結果、和牛繁殖雌牛飼育頭数は、平成16年度以降、徐々に増頭が進み、現在、約5,300頭の規模に回復してきています。

## 平成20年度における増頭の取り組み

年度当初に、関係団体等と協議し、個々の経営毎の増頭計画を詳細に調査検討したうえで、地域毎に次のとおり増頭目標頭数を設定し、平成21年度の家畜保健衛生所による頭羽数調査日（平成21年8月1日）までに、県下で240頭の繁殖雌牛の増頭を目指すこととしました。

県民局	増頭見込み	減頭見込み	差引増頭目標頭数
備前	55	17	38
備中	188	103	85
美作	156	39	117
合計	399	159	240

また、増頭計画の内容については、下表のとおりです。

内 容	戸数	頭数
導入（補助事業活用）	29	128
新規参入	3	31
導入・保留（規模拡大）	46	137
酪農経営から転換・乳肉複合化	19	44
肥育経営から転換・繁殖肥育一貫化	3	20
放牧による増頭	4	39
合計	104	399

上記の他、遊休農地を活用した放牧の推進や自給飼料増産対策、岡山県畜産協会が開催する肉用牛入門講座による新たな担い手確保対策等、各種事業を積極的に展開しながら、肉用牛生産基盤の拡大に努めているところであり、これらの目標達成には、生産者・関係者が一丸となった取り組みが必要です。

「平成の畜産危機」を乗り切るためにも、皆様のより一層のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

表1 肉用牛増頭目標

区分	飼養頭数(頭)				
	総飼養頭数	繁殖雌牛	肥育牛	肉用種等	
				肉専用種	乳用種等
平成16年度	33,213	5,064	28,149	5,744	22,405
平成17年度	34,428	5,295	28,175	5,749	22,426
平成18年度	35,834	5,414	29,420	6,270	23,150
平成19年度	36,042	5,462	29,580	6,280	23,300
平成20年度	36,349	5,509	29,790	6,340	23,450
平成21年度	37,607	5,567	30,990	6,340	24,650
増減(H21-H16)	4,394	503	2,841	596	2,245